

政治の話しようよ



沖縄・18歳
うえはらあき
上原晴美さん
(沖縄尚学高3年)

【沖縄の在日米軍基地問題】

現時点で在日米軍基地を全面撤去するのは不可能に近いことであるにもかかわらず、この国を守る米軍基地が日本全体に分散されることなく、沖縄に集中して置かれています。かつて本土防衛のための捨て石とされた沖縄に、さらに敗戦の責任を長きにわたって押しつけてきたこと。そして、その沖縄が今、涙で抗議していることを、皆が傍聴者になるのではなく、日本全体で考えていかなければならないのではないのでしょうか。



東京・16歳
おつかりな
大塚莉那さん
(桜丘高2年)

【女性の社会進出】

不安に思います。社会に出た時、「果たして自分は男性のように正当に評価されるのか」と。今、政府が政策や制度を練っていますが、それだけでは何も変わらないと思います。例えば産休、育休は、利用する人にはいい制度ですが、扱った分の仕事を担わなければならぬ人もいます。最も大事なことは、制度を利用しない人に対するサポートだと思います。また、男性も当たり前のように育休を取れるような環境が必要です。



宮城・18歳
あかいりょうめい
赤井澤朋美さん
(仙台城南高3年)

【若者の政治参加】

私の学校の生徒総会は、全校生徒が参加するのが前提です。しかし、質疑応答や討論はほぼ無く、積極的に参加する生徒が少ないのが現状です。18歳選挙権の校内アンケートでは「投票するべき」と感じている生徒は約6割。国政選挙でも生徒総会でも、積極的に参加する人が少ないと感じました。若い人たちが政治に積極的に参加しないといけないと思います。今後の日本を作っていくのは、年長者ではなく若者だからです。



北海道・17歳
たまきなみ
滝葉奈美さん
(旭川明成高3年)

【集团的自衛権】

集团的自衛権とは、仲間の国が攻撃された時、いっしょに反撃できる権利のこと。日本は憲法との関係で、この権利を使えないことになっていましたが、安倍晋三内閣は憲法9条の解釈を変えて、これを認めました。私は反対です。解釈の限界を超えているからです。私たちが毎日の生活を送るうえで一番大切なことは、平和なことだと思います。どうしたら平和を維持することができるのか、考え続けることが必要です。

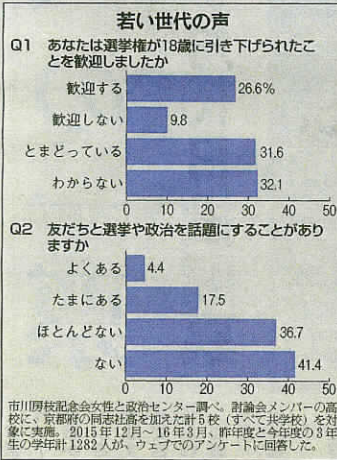
選挙権年齢を「18歳以上」にする改正公職選挙法が施行された19日、4都市の高校生が東京に集まり「主権者になるということ」について議論しました。新たな有権者約240万人の1人になったみなさん、まもなく有権者になるみなさん、身近なところから政治に目を向けてみませんか。
(編集委員・別府薫)

4都市の高校生が東京で討論会



討論会は、東京・代々木と政治センターが主催。木の市川房枝記念会女性と北海道旭川市の旭川明成

「実践で身につくかも」
18歳以上1票1票
討論会は、東京・代々木と政治センターが主催。木の市川房枝記念会女性と北海道旭川市の旭川明成



討論会の司会を務めた政治学者、五十嵐暁郎さん(立教大学名誉教授)＝写真＝の話



240万人、無力ではない

18、19歳の約240万人が新たに有権者になりましたが、新潟県の人口に匹敵します。有権者に占める割合は2%です。社民党の支持率は1%ですから、その2倍。一票で政治は変わらないと無力感を持つ人は大人でも多くいますが、決して無力ではないのです。

政治は、よりよい社会をつくるために、永遠に試行錯誤を繰り返していく人間の営みだと思います。必要なのは、議論すること。おたがいに刺激しあいながら、結論のレベルを上げていくしかありません。高校生の新鮮な発想が、大人たちを刺激することを期待します。

「権利には責任も伴う」
4人は、それぞれが考えている生徒会活動かえる政治課題についても意見交換しました。上原さんのように、赤井澤さんは生徒会長としてかわ

活発な議論が繰り広げられました。19日、これも東京都渋谷区の婦選会館

高、宮城県仙台市の仙台城南高、東京都北区の桜丘高、沖縄県那覇市の沖縄尚学高から代表が1人ずつ集まりました。事前に各校の高3を中心にアンケートを行い、その結果をもとに議論はスタートしました。議論は「選挙権が18歳以上に引き下げられたことについて」とまどいが多いことがわかります。左のグラフQ1参照。上原晴美さん(沖縄・3年)は「クラスで委員を決めたり、生徒会活動で議論を交わしたり」というプロセス

は、学校でも少なからずある。でも、いざ主権者となつてリーダーを決めるということになると実感わきません。赤井澤朋美さん(宮城・3年)は「日本の高校生は、自分もまわりもまだ子どもだと思ってるのでは」とみます。スポーツと同じで、実践しないと身につかないのかも」と選挙や政治の話は友だちとはしない、という傾向も浮かび上がりました。Q2参照。滝葉奈美さん(北海道・3年)は自分のまわりには政治の話

をやる人がいない。スマホを見るのにいそがしく、テレビのニュースも見なくなっているのかなと思います。

「若者は関心がないわけではない」と考えるのは、東京の大家利さんは、9年ぶりの最近も都知事の辞職が学校で話題になりました。「私は16歳なので、参院選、都知事選と立て続けに投票できる18歳がうらやましい。正しい判断、選択ができるように、あと1年半を大切に、慎重に多くのことを学んでいきたい」と

参院選で一票を投じたことになる18歳の上原さんは「胸を打って政治に対して意見を言える半面、責任も伴う」と感じています。(この世代が政治的に利用されたり、誘導されたりするところがあつてはならない。ニュースやネットからの情報だけでなく、自分から答えをさがしていきたいです。)